

国際化学肥料ニュース (2018年8月)

肥料業界の2018年8月動態

- * インドとパキスタンの需要減退で、8月のDAP国際市況はアジアでは弱気、アメリカと南米は強気の両端に分化される予測である。インドは今年4～9月にすでに輸入また輸入予定のDAP数量が380万トンに達し、10月～来年3月の輸入DAP需要量が120～150万トンしか残らない。また、パキスタンは通貨下落で、国内DAP小売価格が大幅上昇し、需要が減退している。7月末のDAP在庫が55万トン、8月輸入予定の40万トンを加えて、95万トンの在庫になる。したがって、年内大量輸入の可能性がほとんどない。現時点ではインドとパキスタンはCFR430ドルを超えるDAPには見向きもしない。

一方、アメリカはリン安の需要が旺盛で、8月だけでモロッコのOCP社から2船、ロシアのEuroChem社から1船のリン安を輸入する予定である。MAPの最新CFRニューオーリンズ価格が450ドル/トンに上昇した。ブラジルとアルゼンチンもMAPの需要があり、粒状MAPのCFRブラジル価格が450～451ドル/トン、CFRアルゼンチン価格が455～457ドル/トンである。

- * インドMMTCが行った尿素入札について、イラン産尿素約66.2万トンがCFR西海岸274.8ドル/トン、CFR東海岸278.95ドル/トンで契約した。ほかに約5万トンの中東産尿素もほぼ同様の価格で契約する予定である。インド側は今回の入札DAPで71.2万トンの尿素を確保したが、国内需要に満たさず、9月に再度入札を行う可能性がある。

- * 中国税関の速報によれば、7月の化学肥料輸出量が19.3%減の213万トン、金額では3.6%減の6.5億ドル。一方、7月の化学肥料輸入量が54万トン、金額1.71億ドル。輸入量が激減した原因は、2018年の塩化加里輸入基本契約の交渉が難航して、7月末まで締結できなかったことである。

- * 8月12日、ベラルーシBPC社は中国中化グループが中国市場におけるBPC社産大粒塩化加里の販売独占代理店に関する覚書を締結した。独占代理期間が2019～2023年、総数量70万トン、実際の価格がその年の市場価格に準ずるという。

2015年5月、BPC社が中国中化グループとの間に2015～2019年の販売独占契約を提携した。今回の覚書はその延長である。

- * リン安の国際相場はインドなど新興国の通貨下落で、やや下落している。8月6～12日の1週間でリン安の取引数量が大分減っている。中国からバングラデシュにFOB420

ドル／トンで1船のDAPを輸出し、ロシアのPhosagro社がアメリカにCFR450ドル／トンで1船のMAPとDAP、EuroChem社も同じ価格で4万トンMAPを輸出する。モロッコのOPC社がブラジルにCFR450～452ドル／トンでMAPを輸出するだけである。

8月中旬、インドが出したDAPの最高価格はCFR427～428ドル／トンに下落し、パキスタンはDAPの輸入をストップしている。ブラジルもCFR455～460ドル／トンのMAPに興味を示さないようである。

- * 8月13～19日のリン安の国際市況について、インドルビーの為替レートの低下に伴い、インドRCF社が8月初めに行ったDAP入札について、応札商社にCFR425ドル／トンを超えないように通告したようである。これに応じるように中国産DAPのFOB価格が8月1週目の420ドル／トンから415～418ドル／トンに値下げした。

一方、昨年末フロリダ州のPlant工場を閉鎖したアメリカはリン安不足で、輸入に依存する局面に陥っている。8月中旬ロシアのPhosAgro社から粒状MAPを購入し、そのCFR価格455ドル／トンでブラジルより5ドル／トンも高い。

ほかにサウジアラビアのMaaden社はCFR450ドル／トンでケニアに2.5万トンDAP、サウジアラビアのSABIC社もイラクに2.5万トンDAP、ロシアのEuroChem社がCFR455ドル／トンでブラジルに1万トンMAPの輸出契約を締結した。

- * 8月1日開札されたインドMMTC社の尿素入札は廉価のイラン産尿素を一掃したため、8月中旬の尿素国際価格が8月初めより約10ドル／トン上がった。CFRブラジルが310ドル／トン、CFRフランスが325～330ドル／トンとなった。8月13～19日の1週間、約27万トンの尿素売買が行った。価格高騰のため、中国産大粒尿素も久しぶりに3万トンを輸出した。尿素の市況は9月も堅調さを維持するだろう。

- * フロリダ州Plant工場の閉鎖でアメリカのリン安輸入量が大幅増えた。昨年7月から今年6月までの肥料年度にリン安輸入量が249万トンに達し、最多記録を更新した。そのうちMAPが33%増の144万トンである。

- * 中国国家统计局の最新データによれば、1～6月の上期に化学肥料生産量が6.5%減の2636.3万トン（純N、P₂O₅、K₂O換算、以下同）。その内訳は窒素肥料生産量が7.5%減の1887.9万トン、リン酸肥料生産量が5.9%減の677.2万トン、加里肥料生産量が2.9%増の289.3万トンである。生産量が大幅に減少した原因は政府の環境規制で、生産設備の稼働率が下がったことである。

- * また、中国統計局の最新データによれば、7月の中国化学肥料生産量が5.8%減の458.7万トン（100%N,P,K換算、以下同）。その内訳は窒素肥料生産量が8.1%減の304.1万トン、リン酸肥料生産量が3.3%減の112.9万トン、加里肥料生産量が3.7%増の45.1万トン。厳しい需給関係が続き、化学肥料価格が高値で推移している。
- * 8月25日、インド側がベラルーシのBPC社と2018～2019年度（2018年7月～2019年6月）の塩化加里輸入基本契約を締結した。CFR価格290ドル/トンで、前年度のCFR240ドル/トンより50ドル/トンの値上げである。最大数量が70万トンである。今までの慣例によれば、他の大手加里メーカーも逐次にインド側と同じ価格で塩化加里輸入基本契約を締結することになる。
- * インドNFL社はDAPの国際入札を公表した。予定購買数量10万トン、締切は8月30日、9月20日まで船積という条件である。
- * 8月23日、アメリカが中国から輸入される一部の商品に対して25%制裁関税を発動した。これはトランプ政権が中国製品に対する第2弾の制裁措置である。同日、中国政府もアメリカ産333種類の商品に対して5～25%輸入関税を徴収すると発表した。今回、アメリカと中国の関税徴収対象に化学肥料が含まれている。
 しかし、化学肥料に対する両国の制裁措置が大分異なる。アメリカは中国産化学肥料に対してすべて25%の輸入関税を徴収するのに対して、中国政府は輸入量の多いNP化成肥料、硫酸加里苦土肥料、有機入り配合肥料およびその他の過リン酸石灰に対して5%輸入関税しか徴収せず、その他の輸入量がきわめて少ない化学肥料に対して10～25%の輸入関税を徴収する対策を講じている。すなわち、中国政府は国内肥料供給と価格上昇を考慮して、関税の徴収による不良影響を抑えたい。
 2017年中国からアメリカに39.2万トン化学肥料を輸出し、金額で1.05億ドル。その内訳は尿素22.2万トン、UAN（尿素硝安液肥）5.9万トン、DAP5.9万トン、MAP3.3万トン、硝酸りん肥1万トンであった。アメリカから中国に14.3万トン化学肥料を輸出し、金額で0.56億ドル。その内訳はNP化成肥料8.5万トン、硫酸加里苦土肥料5.3万トンであった。2018年1～7月、中国からアメリカに輸出された化学肥料の総金額が68.8%減の2668万ドル、アメリカから中国に輸出された化学肥料の総金額が2622万ドル、ほぼ同レベルになった。アメリカの制裁が効いている現れである。
- * 8月1日開札されたインドMMTC社の尿素入札は廉価のイラン産尿素を一掃したため、8月下旬の尿素国際相場が一段と上がってきた。中東尿素のFOB価格が300ドル/トンに達し、2015年7月以来の高値である。9月にバングラデシュとエチオピアが尿素的国際入札を予定して、購買数量がバングラデシュ45万トン、エチオピア50万トンと

予定している。これにより、9月出荷の尿素 FOB 価格はサウジアラビア産が 302 ドル／トン、アルジェリア産大粒尿素が 310 ドル／トン、ロシア産が 280 ドル／トン、中国産が 294～296 ドル／トンと近年最高値に達した。

- * インドが大手加里肥料メーカーと 2018 年度の塩化加里輸入基本契約を締結したことを受け、中国と加里肥料メーカーとの 2018 年度塩化加里輸入基本契約に関する商談が注目を集めている。噂によれば、メーカー側が強気で、価格がインドと同じ CFR290 ドル／トンにするよう厳しく要求している。ただし、中国側も値上げ幅を 30～40 ドル／トンに抑えるよう強く抵抗する。例年、6月または7月に塩化加里輸入基本契約を締結したが、今年は大分遅れて、締結しない可能性も出ている。
- * リン安の需要は安定していない。インドの通貨安で、DAP の輸入価格が CFR428～429 ドル／トンに限られ、国内消費量も減少している。したがって、最大供給者の中国メーカーが FOB 価格を 416～418 ドル／トンに設定する。一方、ブラジルなど南米地域はリン安需要が高まり、MAP の CFR 価格が 460 ドル／トンに達した。アメリカも DAP と MAP 不足で、ロシアやモロッコからの輸入を増やす動きがある。

大手各社の営業業績

- * ドイツの K+S 社は第 2 四半期の業績を公表した。売上高が 9%増の 8 億 1200 万ユーロ、EBITDA（税引きと減価償却前の利益）が 3%増の 1 億 500 万ユーロ。売上増の最大原因は昨年稼働したカナダの Bethune 加里鉱山の生産と販売が順調である。ドイツ国内の加里鉱山が環境問題と老朽化で生産量が減ったが、カナダの Bethune 加里鉱山がそれをカバーした。第 2 四半期の塩化加里販売量が 23.9%増の 88 万トンである。
- * ロシアの PhosAgro 社が上半期の業績を公表した。化学肥料生産量が 14%増の 450 万トン。また、製品の販売も順調で、リン酸塩と飼料用リン酸一カルシウム（MCP）販売量が 7.2%増の 340 万トン、DAP と MAP 販売量が 2.4%増の 150 万トン、NPK 化成肥料販売量が 12%増の 130 万トン、NP 化成肥料販売量が 44%増の 22.7 万トン、リン鉱石販売量が 5.9%増の 140 万トン、尿素販売量が 70%増の 89.4 万トン、硝安販売量が 1.1%増の 37.3 万トン。
- * ヨルダンの APC 社が上半期の業績を公表した。加里肥料生産量 10%増の 121 万トン、販売量が 4%増の 120 万トン、硝酸加里の生産能力も 13.5 万トンから 17.5 万トン／年に拡張した。トン当たりの塩化加里生産コストが 5%減、販売価格も上昇したことで、粗利率が 35%に上昇し、上半期の純利益が 30%増の 7430 万ドルに達した。

- * ロシアの Uralchem 社が上半期の業績を公表した。化学肥料生産量が 3%増の 320 万トン。その内訳はアンモニア生産量が変動なしの 41 万トン、硝酸生産量が 5%増の 15.2 万トン、尿素生産量が 1%減の 60.5 万トン、MAP と DAP 生産量が 84%増の 9.1 万トン。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

その他

- * 8月2日、アメリカ政府は中国産製品の輸入関税を 10%から 25%に引き上げることに對して、中国政府はアメリカ産 5207 種類の製品に 5~25%の輸入関税を徴収する対抗措置を打ち出した。そのうちアメリカ産尿素、塩化加里、硫酸加里、DAP、NPK 化成肥料の輸入関税を 25%にする。ただし、アメリカから尿素、硫酸加里、NPK 化成肥料を輸出していないうえ、塩化加里もカナダ産の中継貿易である。したがって、アメリカ産化学肥料に対する関税の引き上げはほとんど意味のない措置である。